写真：玉井 充

O·Z Rally Racing

かつてのWRCを席巻したホイールを最新技術で新開発

O·Zラリーレーシングを見て「懐かしい」と思われる方も多いことだろう。原型となるホイールは1988年、グループA時代のWRC（世界ラリー選手権）にグラベル専用としてデビュー。89年にはトヨタ セリカGT-4に装着され、90、92年にドライバーズ、93年にはマニュファクチャラーズ、94年にはドライバーズ＆マニュファクチャラーズを制覇した。20個のホールを配したディッシュデザインはグラベルでの跳ね石からブレーキを守るためだったが、ディスク面にO·Zレーシングと大きくブランド名が刻まれていたのも印象的だった。一方、ターマック用としては同じく白の5本スポークとしたクロノを使用していた。

そんなWRCでの活躍を受け、市販のディッシュデザインのO·Zラリーレーシングは一世を風靡した。カラーは白がメインでシルバーも用意。かつ、当時はクロカン4WDブームもあって黒の6Hまでもラインナップされていた。

そして今、新たに蘇ったのがこのラリーレーシングである。今では特異なディッシュデザインゆえ、一見、昔と同じデザインに感じられるが、子細に見れば違いに気付かされる。まずホール数が15となり、ディスクからリムに至る部分にはリブを持たせてスポーク風に仕立てている。そのスポークには軽く折れが設けられ、立体感を伴いながらきっちりとリムエンドに達している。ディスク面のロゴはかつてよりは小さくなっている。そう、雰囲気こそかつてのデザインを受け継ぎながらも、しっかりリファインされているのである。このデザインは世界中のO·Zユーザーの声を反映したとのこと。ちなみにベースカラーはガンメタ系のダークグラファイトでホワイトも用意するというスタンスだ。

サイズは17、18、19インチで、輸入車から国産車まで幅広くカバーする。かつてのトヨタ セリカやランチア デルタにホワイトを装着すればラリーの、アルファ 156にダークグラファイトを装着すればDTMの雰囲気を手に入れることができる。専用サイズが用意されているだけにまさにジャストフィット。また、MINI、フォルクスワーゲン、アウディなどの、現在のスポーツモデルにセットしても似合う。そればかりかアウトドアのイメージも有するため、トヨタC-HRやマツダCX-5などSUVに装着すれば雰囲気が一変する。かつての栄光を知る年代の方には懐かしく、当時を知らない若者には新鮮に映る、それがラリーレーシングの強みなのかもしれない。

O·Z S.p.A.の取締役社長、クラウディオ・ベルノーニ氏がレース用ホイールを手掛けたのが1984年。そしてラリー用として88年にデビューさせたのがこのラリーレーシングだった。それだけに30年を経た今、ベルノーニ氏のラリーレーシングへの思い入れは大きいと聞く。来年には日本でのWRC開催が予定されている。WRCではワークス勢が100％装着しているO·Zホイール。その雄姿を間近で目にすることができそうだ。

O·Zレーシングはトヨタ・セリカとともに1990年代のWRCを席巻。世界中から大きな注目を集めた。

◀ フォルクスワーゲンやアウディをはじめ、輸入車から国産車まで対応車種を幅広くカバーする。

O·Z ラリーレーシング
アルミ鋳造1ピースホイール

価格:50,760円～79,920円（1本）
カラー:ホワイト／ダークグラファイト
http://oz-japan.com